

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築環境総合性能評価システム2016 名古屋中規模建築物環境総合性能評価マニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中村区太閤三丁目計画新築工事	階数	9階
建設地	名古屋市中村区太閤三丁目203番、206番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	220 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 予定	評価の実施日	2019年10月5日
敷地面積	403 m ²	作成者	
建築面積	338 m ²	確認日	2019年10月6日
延床面積	2,762 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE0.7 ★★★★★☆☆☆☆

★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	88%
③上記+②以外の	88%
④上記+	88%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

音環境	3.2
温熱環境	2.6
光・視環境	3.0
空気質環境	2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

機能性	3.2
耐用性	2.9
対応性	3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.8

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性・	2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

建物外皮の	4.7
自然エネ	3.0
設備システ	2.8
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

水資源	3.4
非再生材料の	2.5
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

地球温暖化	3.0
地域環境	2.8
周辺環境	2.3

3 設計上の配慮事項		
総合	節湯器具、節水型トイレ、LED照明等エネルギー消費効率の良い機器を積極的に採用し、省エネルギー環境に配慮した。	その他
Q1 室内環境	シックハウス対策としてF☆☆☆☆を全面的に採用。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	防犯システムの採用、フリーミーティングルームの採用	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	街並みと調和するデザインとした	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	省エネ適判に対応した	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	ハロン消火剤を使用せず、地球温暖化に配慮した。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	屋上広告を一切なくし、光害対策に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)中村区太閤三丁目計画新築工事

■使用評価マニュアル:


CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.2	
2. 自然共生	評価点 = 1.3	
3. 循環型社会	評価点 = 2.7	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3.3.1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3.2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3.3.1の全体に対する重みに0.2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3.2.3のうち、LR3.2.3.3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3.2.3の評価点とは異なるものである。